

# ジオAIの社会実装による 目指すべき未来像等

LocationMind株式会社

2026年3月27日



LocationMind

We Help Your When, Where And Why



# はじめに

ジオAIの可能性は、人間の地理空間的・時系列的な認識能力を拡張させ、意思決定の高度化をもたらしえるところにあると考えます



# 我が国の国土利用に関するシナリオ例

## 日本に必要なシナリオ例

- 少子高齢化が進み、1人1人の国民の生産性を高めながら国土の効果的な維持・開発を行うこと
- 無人・自動化された高度なモビリティやロボットに対する交通管理・管制などを通じてデジタルなデータが超規模で収集され、社会経済価値最大化の再計算が定常的に行われていること
- 人口動態やライフスタイルの変化に迅速に対応できる都市開発能力を実現すること
- 災害やエネルギー需給など数年おきに到来しうる大規模な社会的混乱に対するレジリエンスを強化すること
- 観光・就労・貿易など海外からのインバウンドな関心を誘致し、国際的競争力を向上させること



画像: Gemini で生成

# 理想状態

## ジオAIへの期待

- 人の分析力や意思決定能力を劇的に向上させること。正しい意思決定が、成功の確率・規模・速度などの飛躍的な向上を可能にすること。これらの意思決定に携われる人間を劇的に増やすこと
- 私たちの国土における陸・海・空・地下・屋内など様々な「空間」が存在し、人・不動産・インフラ・モビリティ・ロボットなど様々な重要プレイヤーがこれらの空間で活動し、データを生成・収集している。こうしたプレイヤーが協調して必要な大規模分析ができること
- 高い時間分解能・空間分解能で国土全ての現状把握や、過去・未来の分析・推定を含めた大規模・高度な分析が量産されること



Spatial  
(時系列)



Temporal  
(時系列)

画像: Gemini で生成

# 現状のハードル：「ビッグデータの限界」

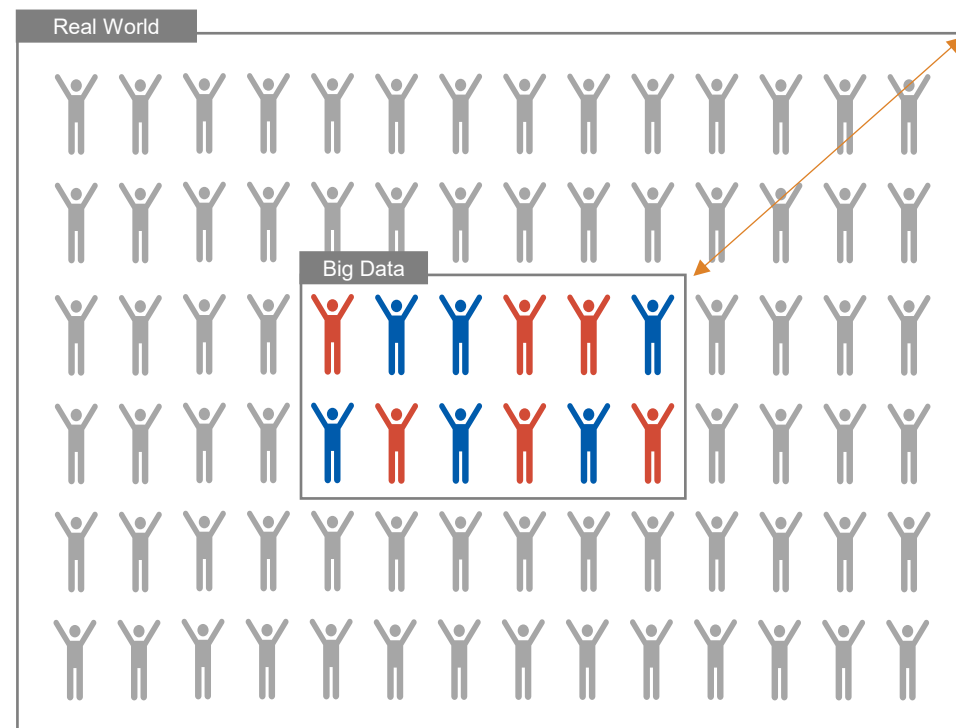
## 競争領域

- 民間には自動車・スマートフォン・船・衛星画像・不動産・商取引など様々なモダリティの「ビッグデータ」が存在し、競争の源泉になっている。一方、民間企業の「シェア」や「収益領域」に偏ったデータであることに限界

## ハードル

- AIの開発には、様々なG空間における時間的・空間的な全体像を表現するデータが必要である。一方で、これを整備するコストは民間で負うことが難しく自然発生することも期待できない。ジオAIの発展が自然言語や画像系統など過去のAI体系に対して抱える最大のハードルと言える。こうした我が国のG空間全体で信頼できる全体像のデータ開発は国に期待したい

ジオAIへの期待

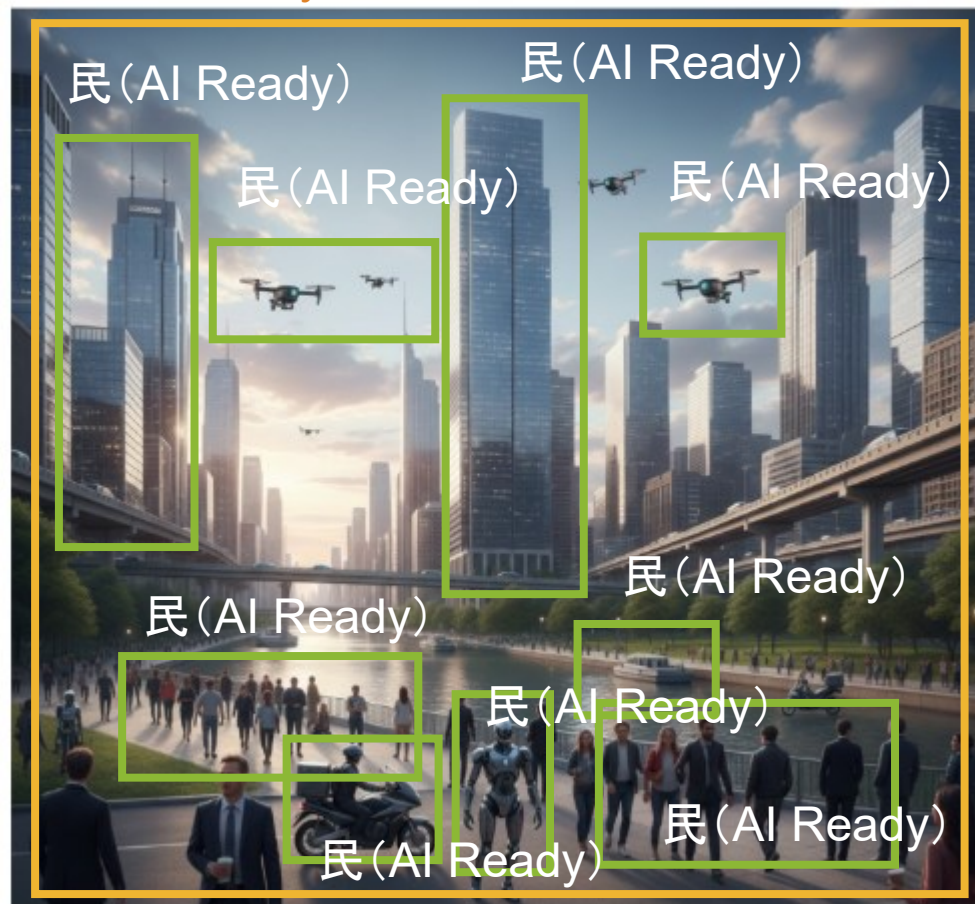


# AI Readyなデータ整備へ

## AI Ready

- 官民連携をすべく、どのようなデータを各々整備し連携していくかの短期・中期ロードマップを描くことが重要。全員が同質のデータばかり収集せず、データを組み合わせることでより大型の分析の達成を目指す対話が重要
- 特に、国には地方を含めた全体像を把握するための統計的なデータを経済活動のある国土全体や、特に要衝で整備頂くことが重要である
- AI Readyなデータ整備を行うことにも一定のコストが必要であり、一過性の整備活動に留まってはならない。特にGeospatialなデータは時系列変化を追えることに強みがあるため、古いデータは陳腐化しAIの競争力自体に致命的な影響を与える

## 官 (AI Ready)



画像: Gemini で生成

# ユースケース創出

## ユースケース

- 既存の大規模産業のさらなる高度化や、新しく創出されることが期待されるような新産業におけるユースケースを想定した、データの整備やユースケース創出への予算措置が必要
- データ整備とユースケース開発との間にも大きな工数があることの検討が見過ごされてはならない
- ユースケースの高度な事例には、データの組み合わせで実現するものを想定するべきで、組み合わせに前向きなデータを整備することもAI Readyに必要な要件になる
- 国が整備するデータの有償化、或いは国での採用による一定のアンカーテナンシーにも期待したい



画像: Gemini で生成

# まとめ

- ジオAIの目指すべき理想像は、人間の地理空間的・時系列的な認識能力を拡張させ、意思決定の高度化をもたらすこと
- 我が国に起きうるシナリオやユースケースを想定してユーザビリティの高いAIを開発することが重要
- シェアの多寡での競争という枠を取り外して、G空間全体を構想しデータ化することがAIには必要。空間的網羅性、時系列の柔軟性を通じて我が国全体で使える構想を意識したい
- 官民連携し、モダリティ間でも連携することを想定した、AI Readyなデータを整備することが重要
- ユースケースへの投資、データ整備への投資を継続的に行う必要がある。データ整備で終わらせたり、データの更新を止めることでの陳腐化を起こしてはならない

